



「 エレミヤの祈りの答え～祝福の先駆けとなれ 」

エレミヤ書講解-66 エレミヤ書32：26～44 他 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 32章 】

- 26 すると次のような【主】のことばがエレミヤにあった。
- 27 「見よ。わたしはすべての肉なる者の神、【主】である。わたしにとって不可能なことが一つでもあろうか。
- 28 それゆえ——【主】はこう言われる——見よ。わたしはこの都を、カルデア人の手と、バビロンの王ネブカドネツアルの手に渡す。彼はこれを攻め取る。また、この都を攻めているカルデア人が来て、この都に火をつけて焼く。
- 29 また、人々が屋上でバアルに犠牲を供え、ほかの神々に注ぎのぶどう酒を注いで、わたしの怒りを引き起こしたその家々にも火をつけて焼く。
- 30 なぜなら、イスラエルの子らとユダの子らは、若いころから、わたしの目に悪であることを行うのみであったからだ。実に、イスラエルの子らは、その手のわざをもってわたしの怒りを引き起こすばかりであった——【主】のことば——。
- 31 この都は、建てられた日から今日まで、わたしの怒りと憤りを引き起こしてきたので、わたしはこれをわたしの顔の前から取り除く。
- 32 それは、イスラエルの子らとユダの子らが、すなわち、彼ら自身と、その王、首長、祭司、預言者、またユダの人、エルサレムの住民が、わたしの怒りを引き起こすために行った、すべての悪のゆえである。
- 33 彼らはわたしに背を向けて、顔を向けず、わたしがしきりに教えても聞かず、懲らしめを受け入れなかった。
- 34 彼らは、わたしの名がつけられている宮に忌まわしいものを置いて、これを汚し、

- 35 ベン・ヒノムの谷にバアルの高き所を築き、自分の息子、娘たちに火の中を通らせてモレクに渡した。しかしわたしは、この忌み嫌うべきことを行わせてユダを罪に陥らせようなどと、命じたことも、心に思い浮かべたこともない。」
- 36 それゆえ今、イスラエルの神、主は、あなたがたが、「剣と飢饉と疫病により、バビロンの王の手に渡される」と言っているこの都について、こう言われる。
- 37 「見よ。わたしは、かつてわたしが怒りと憤りと激怒をもって彼らを散らしたすべての国々から、彼らを集めてこの場所に帰らせ、安らかに住まわせる。
- 38 彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。
- 39 わたしは、彼らと彼らの後の子孫の幸せのために、わたしをいつも恐れるよう、彼らに一つの心と一つの道を与え、
- 40 わたしが彼らから離れず、彼らを幸せにするために、彼らと永遠の契約を結ぶ。わたしは、彼らがわたしから去らないように、わたしへの恐れを彼らの心に与える。
- 41 わたしは彼らをわたしの喜びとし、彼らを幸せにする。わたしは、真実をもって、心と思いを込めて、彼らをこの地に植える。」
- 42 まことに、【主】はこう言われる。「わたしがこの大きなわざわいのすべてを、この民にもたらしたように、わたしは、今彼らに語っている幸せのすべてを彼らにもたらす。
- 43 あなたがたが、『この地は荒れ果てて、人も家畜もいなくなり、カルデア人の手に渡される』と言っているこの地で、再び畑が買われる。
- 44 ベニヤミンの地でも、エルサレムの近郊でも、ユダの町々でも、山地の町々でも、シェフェラの町々でも、ネゲブの町々でも、人々は金で畑を買い、証書に署名して封印し、証人を立てるようになる。わたしが彼らを元どおりにするからである——【主】のことば。」

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用

◆ はじめに ～神の祝福の先駆けであれ

1. 神の命令「アナトテの地（畑）を買え」

(1) エレミヤの疑問への回答：26～44節

- ① 疑問の内容：バビロンに滅ぼされるのに、なぜ土地を買うべきなのか。
- ② それは、神の祝福の先駆けとなる象徴的行為であった。

(2) 新しい契約は本来、メシア的王国で機能する契約である。

- ① イスラエルの一部がメシアを否定したことで、奥義（恵みの時代）が始まった。
- ② イエスをメシアと受け入れ救われた人々は、新約の祝福を受ける。

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

｜祝福の先駆けとして希望を与える者に

*このメッセージは、神の祝福を先んじて受け、それを表す素晴らしさを学ぶものである。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

I エルサレムの崩壊（26～35節）

1. エルサレムの崩壊（26～29節）

(1) 神は全知全能の神としてご自身を表した。

- ① 私にとってできないことが一つでもあろうか→反語表現

*神は契約を結び、全能性の一部を縛ることで、神に愛を示してください。

- ② 神はネブカデネザルを用いてエルサレムを滅ぼす。

(2) バビロン捕囚

- ① これは既に確定した事実である。既に第一次、二次の捕囚は行われた。

② 関連した行為：屋上でバアル礼拝をした人々についての記述 29節

*神はこのバアル礼拝（偶像礼拝）を非常に嫌われた。



2. 崩壊の理由（30～35節）

(1) 霊的教訓を植え付ける。

- ① イスラエルの民にとってはつらい内容である。

- ② しかし直視することによって、霊的な教訓を受け入れ正される。

罪の深みが分かるほどに、神の恵みの深さがなお理解できるようになる。

(2) イスラエルの二つの家（「イスラエルの子ら」と「ユダの子ら」）は

若い頃から罪を犯し続けた。

(3) エルサレムもまた建てられた日から今日まで、神の怒りを引き起こす行為を

重ねてきた。

(4) さらに全ての人が罪を犯した。

「イスラエルの子ら、ユダの子ら、その王、首長、祭司、預言者、ユダの人
エルサレムの住民」

神は幾度も彼らを教えたが、律法も預言者も退け、モレクへの人身供養を重ねた。

2 参照 エレ31:13 19:5、レビ18:21)

II エルサレムの回復（36～44節）

1. エルサレムの回復（36～41節）

(1) イスラエルの民は祖国帰還を果たす。

- ① 「彼らを帰らせ・・・」（37節）は預言完了形

- ② 帰還の目的は「彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる」（38節）

(2) イスラエルの民と新しい契約を結ばれる（詳細は31:31～34）

- ① 無条件契約であり、律法は心の板に、聖霊によって刻まれる。

- ② イスラエルの内面の変化（民族的回心）に伴い、神との関係が完全に修復される。

- ③ 個々人全てが回心し、罪赦され、救われる。

*参照 エレ31:28、申30:9、イザ62:5

- ④ これは「とこしえの契約」で、彼らとその子孫を幸せにするため。

*参照 イザ55:3、エゼ16:60、37:26など

- ⑤ 神は彼らの幸福を大いに喜ばれる。41節

(3) 置換神学への戒め：「イスラエル」を「教会」と読み替え、回復の箇所の
預言は教会の上に成就する、という釈義は誤りである。

2. 疑問への回答（42～44節）

(1) カルデヤ人が滅ぼそうとしているこの地で、再び畑が買われるようになる。

- ① その理由は、人々が再び祖国に帰還し、そこが祝された地、高価な土地となるからである。

(2) 「回復される対象は、エルサレムのみならず、約束の地の全土。

- ① ベニヤミンの地（アナトテの畑がある）、② エルサレム近郊、③ ユダの町々、

- ④ 山地の町々、⑤ ユダとサマリヤの町々、⑥ 低地の町々、

- ⑦ 山地と海岸平野の間にある地域、⑧ ネゲブの町々、南の荒野地方。

◆ まとめ：祝福の先駆けとして希望を与える者に

1. 祝福は悔い改めに伴う

(1) 罪のリストを読みながら、心に痛みを感じる人は幸いである。

- ① 罪の意識こそ、救い主イエス・キリストに近づく第一歩。

- ② キリスト以外に救いはないことを受け入れる。

(2) 神は私たちが神の恵みに歩み寄り、祝福を受けることを願っておられる。

- ① その歩みは聖霊により正され、きよめられ、力強いものに変えられる。

2. 祝福の先駆けとして歩め

(1) 「畑を買う」行為は、将来起こる祝福の先駆けとなる象徴的行為である。

(2) 新約により提供される祝福もまた、来るべき御国の前味を含んでいる。

*私たちのことばや行いが、将来与えられている祝福の先駆けとなるような人生を目指し、実践できるように神に求めようではないか。

2 参照 エレ31:13 19:5、レビ18:21)